

りそな 経済フラッシュ

(ECB <欧州中央銀行> 理事会)

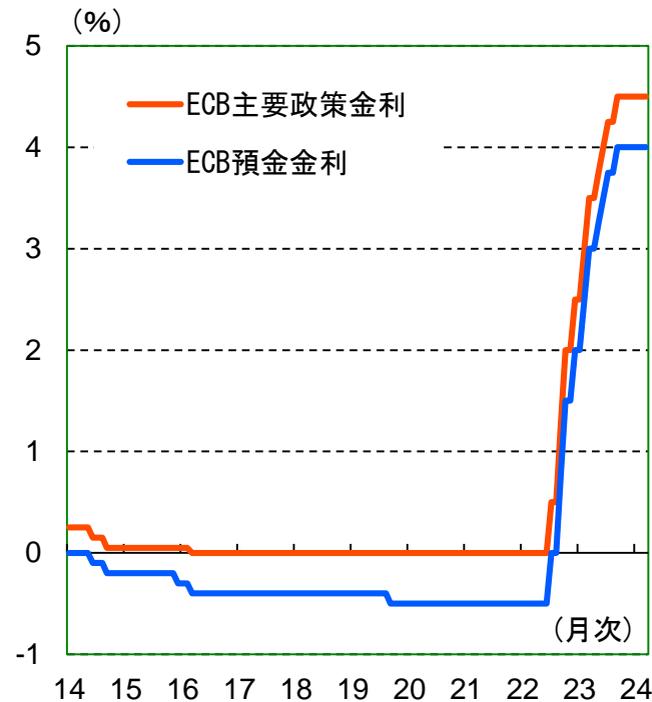
◎ 注意事項をよくお読み下さい



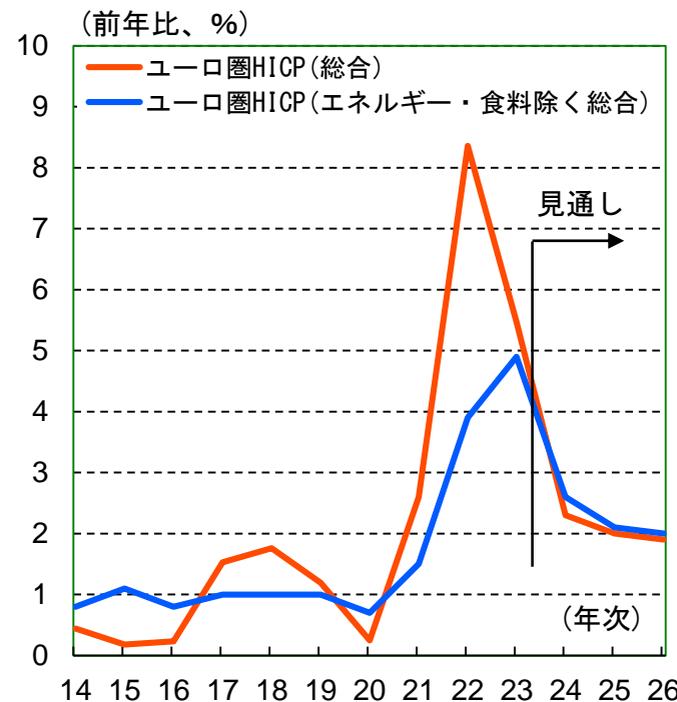
〇 概況

- ECBは4月11日の理事会で、5会合連続での政策金利据え置きを決定した。
- 物価の上昇はECBが安定目標に掲げる2%に向かって着実に鈍化しており、市場では6月の次回会合での金利引き下げという見方がより優勢となった。
- ただし、ECBの経済見通しは、足元の地政学リスクによる資源高や高い賃金上昇を背景としたインフレ再燃リスクを内包することから、夏以降の追加利下げについては慎重なペースとなる可能性がある。

【ECB政策金利・預金金利】



【ユーロ圏消費者物価指数】



【ユーロ圏実質GDP成長率】



注：最新の実績は月次が24年3月、年次が23年。消費者物価指数と実質GDPの見通しはECBスタッフの経済見通しの数字。 出所：ECB、Bloomberg

◎ 注意事項

本資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

りそな 経済フラッシュ

(ECB <欧州中央銀行> 理事会)

◎注意事項をよくお読み下さい



〇6月利下げに向けた明確なシグナル

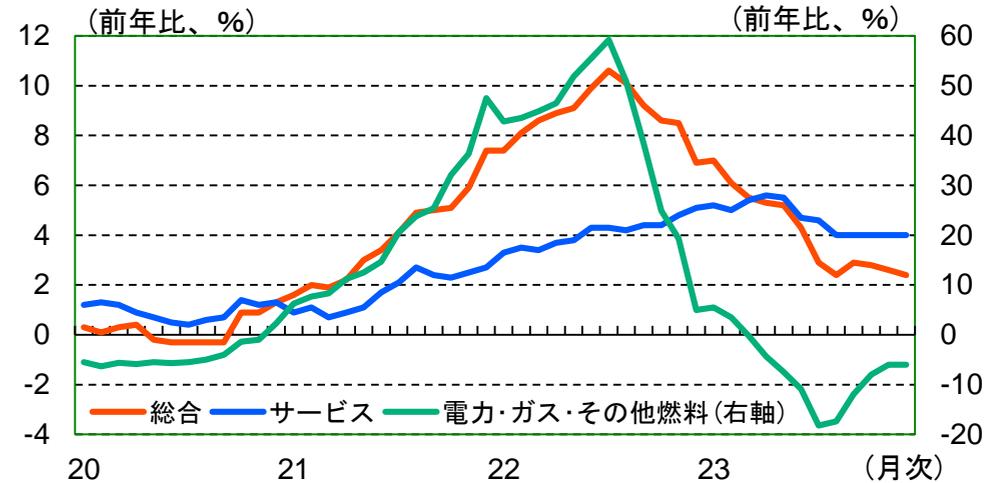
4月11日に開催されたECB理事会では、5会合連続で政策金利の据え置きを決定した。主要政策金利は4.50%、預金金利は4.00%と市場予想通りの結果となった。声明では新たに「インフレが持続的に収まる確信が高まれば、現在の金融政策の制約水準を引き下げることが適切である」という文言が盛り込まれ、次回の6月会合で初回利下げの是非を判断する姿勢が示唆される。

市場では、元々理事会前の高官発言などから6月の利下げが広く織り込まれていた。今会合を受けて6月の利下げ確率は76.8%から87.5%に増加し、利下げ開始を6月とする見方がより優勢となった。これを背景に、会合後のユーロドル相場は米国との金利差が意識され、一時1.07ドルを割り込む水準まで下落した。

インフレ鈍化が市場の予想以上に進んでいることは利下げの大きな材料である。3月のユーロ圏消費者物価は前年比2.4%と、前月の2.6%と市場予想の2.5%をともに下回った。伸び率は3か月連続で鈍化しており、ECBの物価見通しが示す、安定目標に掲げる2%へのインフレ鈍化シナリオに沿っている。

一方で、インフレ再燃のリスクには注意が必要だ。賃金上昇率に影響されるサービス物価はここ数か月前年比4%で高止まりしている。今後の労働市場の鈍化が緩慢なものとなれば、サービス物価の高止まりが継続してインフレ鈍化の阻害要因となりえる。また、足元でイスラエル情勢に対する懸念が高まっており、原油をはじめとした資源価格が上昇基調になっている。情勢悪化により地政学リスクがより顕在化すれば、エネルギー価格が大幅に上昇しインフレの再加速を引き起こす可能性もある。今会合後の記者会見で、ラガルド総裁は「特定の金利パスを事前に約束することはできない」と発言した。これらの潜在的な懸念が解消されない限り、最初の利下げを行った後の追加利下げは慎重なペースとなることが予想される。

【ユーロ圏消費者物価指数(エネルギー・サービス)】



【ユーロ圏従業員1人あたり賃金】



注：最新の実績は月次が24年3月、四半期が23年4Q。 出所：Bloomberg、ECB Data Portal

◎注意事項

本資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。